

Jazz Guitar Lesson

For Jazz Beginner 【6】



Mistletoe Music School

<YouTube 動画URL>

<https://youtu.be/A4p6ryGQSt8>

ロックギタリストのための

ジャズギター入門シリーズ！【6】

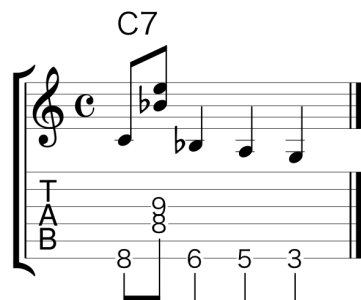
ジャズに初めて挑戦する方を応援する「ジャズギター入門シリーズ」、第6回目は「ウォーキングベースラインの発展」「コードを3つのグループへ分類し、弾き分け」「指板上でのコード縦移動」がテーマになります。この「縦の移動」は以前「コードを倍増させる」動画（<https://youtu.be/TLkv2X62-MM>）でも解説しています。あまり知られていませんが、知っておくと役に立ちますよ。

達成目標：1週間以内

【伴奏課題】

－ ウォーキング・ベースラインの発展 －

前回のウォーキングベースでは1拍目のベース音と同時にコードを演奏しましたが、コードのタイミングを半拍後ろへとずらしてみましよう。右手はピックよりも中指&薬指で演奏する方がタイトなリズムとなります。（ピックで演奏すると2拍目のベースが遅れてしまいやすい）ここでも大切なのはリズムです。いつもメトロノームに合わせながら練習してください。また、前回同様にベースの音が短く切れてしまわないように注意しましょう。



－ 1 拍表・裏へコード －

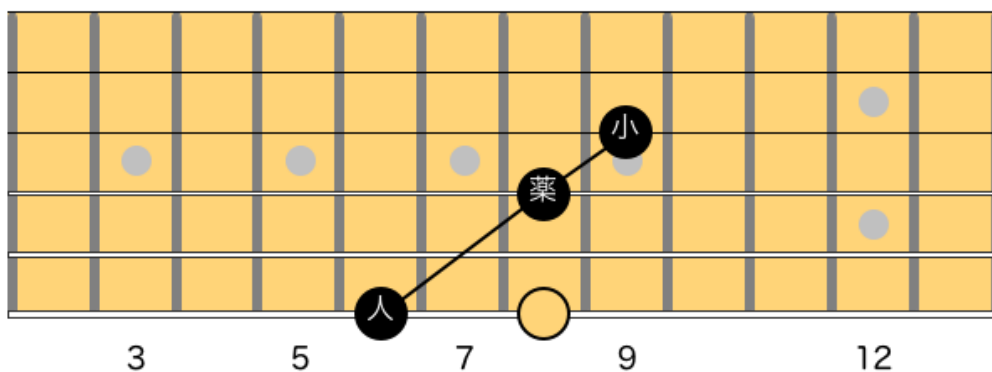
次に 1 拍目の表と裏へコードを導入します。この時、イーヴンの 8 分音符になってしまわないように、スウィングするビートを意識しましょう。ソロのノリと伴奏のノリは違います。伴奏時は思いっきり跳ねる感じで演奏しても構いません。

「トムとジェリー」に登場する大型犬（スパイク）をご存知ですか？私のスウィングのイメージは、この乱暴な犬スパイクが 1 歩ずつ偉そうに歩いているようなイメージを持っています。



ー ウォーキングベースとチャールストン・ビート ー

次にチャールストン・ビート（1拍目頭と2拍目裏）でコードを演奏してみましょう。C7コードはこれまで4弦B♭音は中指、3弦E音は小指で押さえてきましたが、ベースがB♭音へと進行した際、同じ指での押弦は困難になりますので、演奏しやすい指へ置き換える必要があります。下記、私の運指です。



【ソロ課題】

－ 3つの分類と弾き分け －

前回「C7」と、「F7 Dm7 G7」という2つのグループに分類しましたが、今回は更に「G7」を独立させ、3つのグループを弾き分けます。C7をトニック、F7をサブドミナント、G7をドミナントと呼びます。Dm7はサブドミナント代理です。ダイアトニックを覚える動画参照 (<https://youtu.be/RpyAm2UmQa8>)

Tonic

(トニック)

C7

Sub Dominant

(サブドミナント)

F7

Dm7

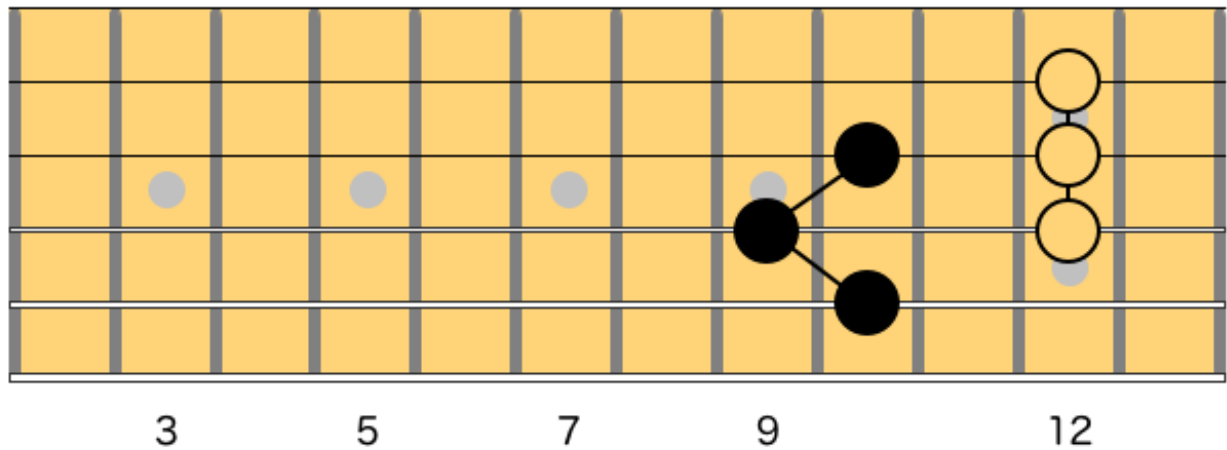
Dominant

(ドミナント)

G7

－ コードの型の把握 －

まず、アドリブ演奏中もコードの型をしっかり把握出来るようチャールストン・ビートを使用してコードの練習から行います。G7では下記の白丸のフォームを演奏します。



Chord progression and fretboard diagrams for the G7 chord shape.

Measures 1-4: C7, F7, C7, C7

Measures 5-8: F7, F7, C7, C7

Measures 9-12: Dm7, G7, C7, G7

The diagrams show the fretboard positions for each chord, with the G7 chord shape highlighted in white circles.

－ 型をなぞる －

チャールストン・ビートで見えるようになってきた型を使ってフレーズを練習します。
最初はコードをなぞることから始め、次第にコードの装飾を行っていきます。この時、
「ターゲットが何度の音で、どのように装飾しているか？」を考えながら進めると上達が
早くなります。

Three staves of musical notation for a Charleston beat exercise. Each staff shows a melody line and a guitar fretboard diagram. The first staff contains measures 1-5 with chords D♭7 C7, G♭7 F7, D♭7 C7, D♭7 C7, and G♭7 F7. The second staff contains measures 6-10 with chords F7, G♭7 F7, D♭7 C7, D♭7 C7, and C#m7 Dm7. The third staff contains measures 11-13 with chords Dm7, A♭7 G7, D♭7 C7, F#7 G7, and D♭7 C7. The notation includes fingerings (1-10) and a final double bar line with a circled 8 in the third staff.

－ 型の装飾と 3 小節のソロ Ex.1－

1 C7 2 F7 3 C7 4 C7

5 F7 6 F7 7 C7 8 C7

9 Dm7 10 G7 11 C7 12 G7 13 D♭7 C7

－ 型の装飾 Ex.2－

1 C7 2 F7 3 C7 4 C7

5 F7 6 F7 7 C7 8 C7

9 Dm7 10 G7 11 C7 12 G7 13 D♭7 C7

－ 型の装飾 Ex.3 －

Ex.3, Type 1 musical score. It consists of three systems of music. Each system has a treble clef staff with a key signature of one flat (Bb) and a common time signature (C). Below the treble staff are two staves labeled 'T' and 'B' for guitar tablature. Chords are indicated above the treble staff: C7, F7, C7, C7 in the first system; F7, F7, C7, C7 in the second system; and Dm7, G7, C7, G7, D♭7, C7 in the third system. The tablature includes various fret numbers and techniques like bends and slides.

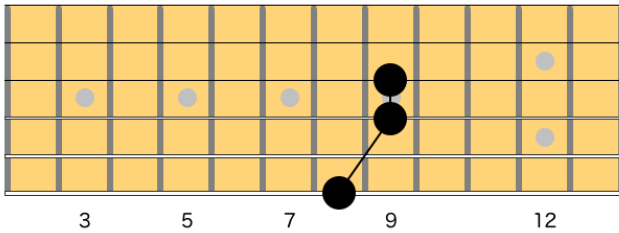
－ 型の装飾 Ex.4 －

Ex.4, Type 2 musical score. It consists of three systems of music. Each system has a treble clef staff with a key signature of one flat (Bb) and a common time signature (C). Below the treble staff are two staves labeled 'T' and 'B' for guitar tablature. Chords are indicated above the treble staff: C7, F7, C7, C7 in the first system; F7, F7, C7, C7 in the second system; and Dm7, G7, C7, G7, B♭7, B7, C7 in the third system. The tablature includes various fret numbers and techniques like bends and slides.

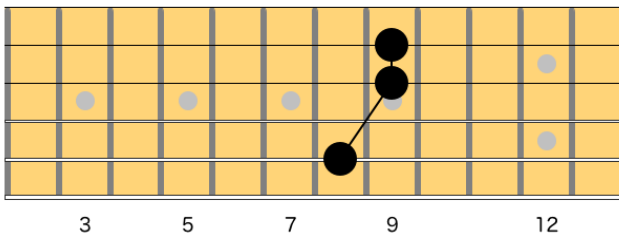
【基礎課題】

— Circle of 5thをChord で演奏 —

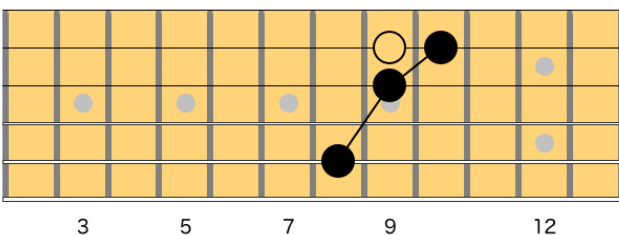
今回はCircle of 5thの進行でコードを演奏します。6弦ルートから5弦ルートへ変換するときのポイントは「同じ型で移動して、2弦を半音上げること」です。5弦ルートから4弦ルートへ応用させる場合でも同様です。下図で理解しましょう。



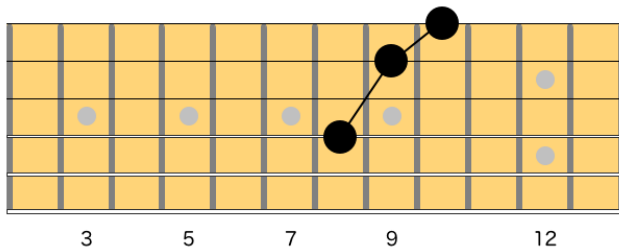
CM7



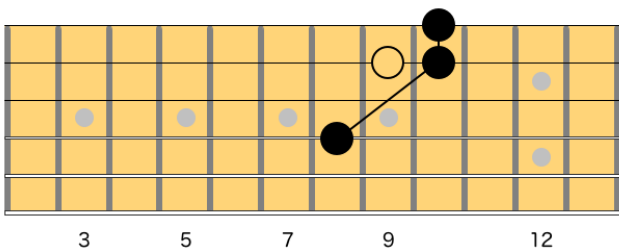
同じコードの型を5弦ルートへ移動



2弦を半音上げるとFM7



同じコードの型を4弦ルートへ移動



2弦を半音上げるとB♭M7

▼投げ銭応援箱 <https://www.paypal.me/mistletoepay/1000>

Paypalを使用した投げ銭箱です。応援宜しくお願い致します。

